

## これまでの作業班審議からの変更事項

STL/TTL作業班事務局

平成27年4月2日

項目	変更前(第4回作業班まで)	変更後(4月2日)
(1)使用周波数帯	60MHz 帯及び 160MHz 帯	変更なし
(2)通信方式	単向通信方式	変更なし
(3)変調方式	64QAM(32QAM、16QAM、QPSKも可とする)	変更なし
(4)復調方式	同期検波方式	変更なし
(5)伝送容量	最大 500kbps	最大 480kbps
(6)クロック周波数	83.33kHz	80kHz
(7)空中線電力の最大値	5W	変更なし
(8)偏波	水平偏波又は垂直偏波	変更なし
(9)占有周波数帯幅の許容値	100kHz	96kHz
(10)補助信号の伝送方式	制御信号等を多重して伝送	変更なし
(11)自動等化器	使用しない	使用できる
(12)交差偏波干渉補償器	使用しない	変更なし
(13)誤り訂正機能	必須	変更なし
(14)中継方式	再生中継方式(非再生中継方式も可とする)	変更なし
(15)無給電中継方式	使用しない	変更なし
(16)スペースダイバーシチ	使用しない	使用できる
(17)回線設計(受信入力)	検討中	標準受信入力-72+Fmr/2dBm、最大受信入力-52dBm
(18)回線設計(回線品質)	回線信頼率 99.9%	変更なし
(19)等価等方輻射電力	制限なし	変更なし

(20)混信保護値等	混信保護値 31.3dB 等	変更なし
(21)C/Nth 値	31.5dB	変更なし
(22)周波数の許容偏差	60MHz 帯 $10 \times 10^{-6}$ (1W超)、 $20 \times 10^{-6}$ (1W以下) 160MHz 帯 $10 \times 10^{-6}$ (1W超)、 $15 \times 10^{-6}$ (1W以下)	$10 \times 10^{-6}$
(23)送信電力スペクトル特性	$f_0 \pm 50\text{kHz}$ にて-37dB 以下、 $f_0 \pm 150\text{kHz}$ にて-48dB 以下	変更なし
(24)送受信ろ波特性	各種値	変更あり
(25)等価雑音帯域幅	83.33kHz	80kHz
(26)総合伝送特性	60MHz 帯 96kHz 以下、160kHz 帯 94kHz 以下	96kHz 以下
(27)送受信空中線特性	規定しない	変更なし
(28)交差偏波識別度	規定しない	変更なし
(29)フェージングマージン	陸上： $0.2 \times d + 6$ 、海上： $0.3 \times d + 6$ (d: 距離(km))	$0.2 \times d + 6$ (d: 距離(km))
(30)電波の型式	D7W、G7W	D1E、D7E、D7W、G1E、G7E、G7W
(31)スプリアス発射等	各種値	変更なし
(32)空中線電力の許容偏差	上限 20%、下限 50%	変更なし
(33)電波防護指針への適合	特段問題ない	変更なし